

飯豊山行

昭和 50 年 8 月 26 日～30 日 胎内尾根～門内岳～飯豊本山～ダイグラ尾根

同行：T

【概要】

24 歳の夏のこと。飯豊の登山ルートはあらかじめ通り、残る大物は胎内尾根とダイグラ尾根。共に飯豊一、二を誇る長大ルートであり、登っているのか下っているのかわからないほどの苦行の道である。そのため最後までやり残していた道だった。この際、一度でやつつけてしまえと思い立ったのが今回の計画。

しかし寝不足と運動不足に朝酒、山中での暴飲暴食がたり、何ともハヤの珍道中となってしまった。結局、4 泊 5 日のうち何と胎内尾根中で 2 泊し、主稜に泊まったのはわずかに御西小屋 1 泊。哀れにもだまされ唆された同行の T は、今回のルートの詳細（お馬鹿さ加減）をろくに知らぬまま、飯豊に地獄を垣間見た次第（T 君、ゴメン）。

まさに「若さとはバカさなり」。愚拳の顛末記をご笑覧下さい（原本は長文のため半分くらいに削りました）。

行動記録

第 1 日（8 月 27 日）

前夜（8 月 26 日）発の急行佐渡（懐かし！）で新潟経由、早朝に新発田入り。

天候	地名・行動	到着 終了	出発 開始	雲 量	記 録
曇	胎内小屋	10:25	11:31		周りはブナの原生林に囲まれ、環境頗る良。時折、雲の切れ目より陽がさすと暑い。夜にはくずれる模様。小屋より林道を更に行くと、200mほどで右下に吊橋が見えてくる。
	ナデ峰	12:03	pass		登り道は傾斜を増したり緩めたりで歩き易い。然し寝不足か、T 氏宅での朝酒がたたったか、胸がむかつきやや苦しい。汗だらだら。気分回復のため、暫く休憩。パンシロンが効いたのか、不快感は消える。然し足は若干重い。
曇/ 晴	小休止	12:15	13:00		593m 独標は、全くピークらしさはなく、平坦な道を伝って見晴台に出る。二王子の展望が良い。それからすぐ下る。あとは地図にもものらぬ小さな登下降を繰り返し、暫くは高度を稼がない。
快晴	頼母木越	13:09	pass		天候が次第に回復すると共に、風も出てきて、心地よい。マツとブナの混林の道でなかなか気持ちのよい道である。鉾立から頼母木までの稜線がよく見える。腹減り握り飯を喰う。体だるく眠たい。
快晴	見晴台(593m) 小休止	13:12 13:44	pass 14:05		とりえのない平頂であるが、つくまでのブナ林がきれいである。過ぎてすぐ、雨量計跡がある。その後灌木の中の道となる。
晴 晴	小休止 池ノ平峰	14:35 15:40	15:00 pass		ここで、水場探しに大変だった。池ノ平と大鍋の泊場を混同したためである。結局いたんだ標識から大鍋の泊場を発見し、ようやく落ち着く。水場までは本流側へ下り 3～4 分。
晴	ポット雨量計 (大鍋泊場まで 5分) 就寝	15:45 19:30			



第2日 (8月28日)

天候	地名・行動	到着 終了	出発 開始	雲 量	記 録
快晴	起床	5 : 30	8 : 10		1 時間ほど寝過ごす。天気は上々。主稜側にわずかだが巻雲がある。日中はまた雲が多いかも知れない。 水汲みは一仕事だ。 陽射し強く、風なく視程もややかすむ。
快晴	小休止 (1230m付近)	9 : 04	9 : 21		風通しの悪いヤブ道で、蒸し暑い。本山方向はモヤの中。杵差の頭が鉾立の肩越しに見える。 この付近から急激に、異常に腹が減ってきて、ペース極端に落ちる。ようやく滝沢峰直前まで来る。
晴～ 曇	休止 (1300m付近)	10 : 05	11 : 15		昼食休憩とす。全身だるく、眠い。 この間に雲が多くなり、主稜もすべて雲の中に入る。
	滝沢峰	11 : 35	pass		滝沢峰以後は小突起の繰り返しである。小池のわきで休止。この間、雪田跡が多く見られる。この池もまた、良い泊場となっている。陽がかげり、気持ち良い。
曇	休止 (1350m付近)	12 : 10			途中、一ノ峰基部の大雪田跡で登路を見失い、都合 20 分位ロス。一ノ峰頂上近いところで休止。
曇	小休止 (1500m付近)	13 : 35	13 : 45		二ノ峰が高い。ウンザリするが、越えたら又急降下が待っている。一ノ峰は頂稜が割合長い。二ノ峰との鞍部左下に雪田跡。間に上がる沢は全面がガレている。
曇	小休止	14 : 10	14 : 21		北股川一帯を除いて、すべてガスの中となった。
霧	二ツ峰 藤七ノ池	14 : 40 15 : 10	14 : 50		雪田はすべて消えたあと。わずか残ったたまり水を利用して今日はここで幕営とす。 暫く一帯はガスの中であるが、5時過ぎより次第に晴れてきて、その後完全に主稜が顔をだした。早速写真撮影で大騒ぎだが、ブヨがものすごく、メシを食うにも何するにも大変だ。 周囲は広大で緩傾斜、夏の初めはおそらく雪田も豊富で、快適な泊場だろう。ここから見る二ノ峰のピークは鋭い。夕陽はここからはちょうど一ノ峰の二ノ峰の間に沈む。
	就寝	20 : 50			<p>【後記】</p> <p>ここまでに稼いだ高度は、7 時間かけて何と 600m!! 予定していた門内小屋までは未だ道遠し。如何にぐうたら道中であつたかお分かりかと・・・</p> <p>藤七ノ池に着いてまもなく、二人の友情史に残る歴史的会話が為される。 「Tよ、今、俺の考えていることがわかるか」 「よ～っく、わかるとも」</p> <p>ということで、あっさり門内は放棄。藤七ノ池泊りに決定。</p>



T君

第3日 (8月29日)

天候	地名・行動	到着 終了	出発 開始	雲 量	記 録
快晴	起床	4 : 40	7 : 30		<div data-bbox="842 293 1385 645" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: right;">藤七ノ池の朝</p> <p>昨夜は素晴らしい星の夜であった。新発田祭りの花火の打ち上げ音も聞こえる。残念にも見ることはできないが。今朝はすばらしい青空が広がる。</p> <p>朝露でニッカーも靴も濡れる。暫く湿原帯に行く。池塘のわきにはモウセンゴケの群落。最低鞍部に降下して、あとの登りはきつくはない。背後に見る二ツ峰が、一步ごとに壮観である。1770m突起を越えた鞍部で休止。わずかな残雪がすぐ下にある。門内岳はすぐ上だ。</p> <p>歩いた分休んでしまった。以後は笹原の気持ちの良い道で、一本調子だが苦にならない。</p> <p>頂上には新しい、オレンジ色のバス停みたいな標識が立っていた。ややけばけばしく、つり合わない。</p> <p>あとは快適な稜線散歩。人かげ全くない。</p> <p>昨日一昨日と同様に日中はガスが湧いてくる。既に、扇ノ地紙、北股はガスの中に入る。</p> <p>石コロビは雪が少ない。その他はガスで全く見えず。</p> <p>小屋は相変わらず修復されていない。老登山者とその娘さんらしい二人連れとすれ違う。小屋には、切合セから来たという体格のよい登山者一人。昼食休憩。</p> <p>登りつつふり返ると、石コロビから湧くガスの動きがダイナミックだ。撮影等で5分間ほどロス。</p> <p>本山、御西は遠くかすむ。視程まことに悪い。</p> <p>亮平ノ池を越え、左下の雪田で花など撮影し、休憩。水流割合多い。</p> <p>御西手前、1950m 鞍部で、水汲みのため休止。そろそろブヨが出始めた。</p> <p>先着パーティ6人。今日は小屋泊り。</p> <p>腹が減り、飯を多めに炊くが、出来るまでの間食がたたって、二人共半分食い残してしまう。</p> <p>夕方、ガスもほぼ引き、大日岳が残照にシルエットを浮かび上がらせる。</p> <p>Tは随分参っているようで、食後すぐ眠りについた。</p> <p>【後記】 この日で酒が切れ、長者原まで禁断症状に苦しむことになった。</p>
快晴	出発				
快晴	休止 (1750m 鞍部)	8 : 25	9 : 20		
晴	門内岳	9 : 40	pass		
晴～ 曇/霧	休止 (1890m)	9 : 58	10 : 15		
曇/霧 霧/晴	北股岳	11 : 02	11 : 10		
	梅花皮小屋	11 : 25	12 : 40		
曇/晴	梅花皮岳	13 : 12	pass		
晴	烏帽子岳	13 : 30	13 : 56		
	亮平ノ池	14 : 20	pass		
晴/曇	休止	14 : 30	15 : 05		
晴 曇/霧	天狗ノ庭	15 : 30	15 : 40		
	小休止	16 : 10	16 : 35		
曇/霧	御西小屋	16 : 43			
	就寝	19 : 45			

第4日 (8月30日)

天候	地名・行動	到着 終了	出発 開始	雲 量	記 録
快晴	起床	4:50			二千m級の朝は寒い。大日、北股とも朝もやの中に、ほのかにかすむ。
快晴	出発		6:35		8年間、見なれた遊歩道に行く。途中、駒形山手前の鞍部より右に巻き道に行く。分岐してすぐの清水がうまい。 付近は雪渓、花崗岩の露岩多く、名刹の庭園を見るようだ。神社までは都合10分くらいロスする。
快晴 ～晴 ～曇	飯豊山神社	8:00	8:33		神主は不在。また雲が湧きはじめ、大日、御西は既にガスの中に入る。
	飯豊本山	8:46	9:23		神社方向も、次第にガスにまかれはじめる。オコジョが突然顔を出して、暫く遊んでいった。
					 <p>本山に至る石庭</p>
					 <p>本山にて</p>
					 <p>オコジョ</p>
曇	小休止 (1810m 付近)	10:22	10:40		本山からは石庭の中を行き、それから急降下、千本峰めざしてガタガタ下る。上から見る岩峰群はきつそうな登りに見えるが、実際はさほどでもない。
曇	小休止	11:48	12:05		鳥帽子のY字雪渓が見事。
	千本峰	12:13	pass		以下ずっと千本峰まで急降下と岩峰、突起をまじえた道だが、巻き道もあって、割合早く通過できる。
曇	小休止 (1150m 付近)	12:58	13:23		主稜は全くガスにかくれる。千本峰への登りでダウン。付近はコマツガとヒメコマツの混林で、ガスがかかり、一幅の山水画を見るようだ。
					 <p>宝珠山？</p>
曇	落合 ヌクミ平 飯豊山荘	14:15 15:10 15:35	14:50 pass		地図を誤認したか、この先にまだ岩峰あり。標識によれば、千本峰とおぼしき所には、自記雨量計があった。通過は12:45。その後は一直線の急降下で、膝に相当こたえる。下って間食をとる。
					ここからは、ちょっとした尾根のタルミを越えて、あとは直線一気。はるか眼下の河原をめざして、下りに下る。いい加減足も出なくなった頃、漸くにして落合がせまる。釣橋を渡って、快い清流に汗をながす。足が石のようだ。

この後、飯豊山荘にテント泊し、翌31日に帰京しました。

ちなみにTは前年にも、私の「飯豊はイイデェ～」の甘言に乗せられて、湯の島小屋からオンベ松尾根、大日岳を経て御西小屋までの苦行を体験しました。人を疑うことを知らない、いいヤツなのです（T君、何度もゴメン）。